

第6章 資料

1 計画策定までの経過

	年月	内容
施策体系（素案）検討	平成 23 年 6 月	スポーツ基本法公布（同年 8 月施行）
	平成 24 年 3 月	スポーツ基本計画公表
		施策体系（素案）まとめ
計画（素案）検討	6 月	第 24 期第 1 回札幌市スポーツ推進審議会
	7 月	市民アンケート実施
	9 月	スポーツ関係団体ヒアリング実施
		市民懇話会実施
	平成 25 年 3 月	計画（素案）まとめ
計画（案）検討	4 月	第 24 期第 2 回札幌市スポーツ推進審議会
	5 月	第 24 期第 3 回札幌市スポーツ推進審議会
	10 月	第 24 期第 4 回札幌市スポーツ推進審議会
	11 月	教育委員会会議審議（予定）
	12 月	パブリックコメント実施（予定）
	平成 26 年 2 月	教育委員会会議決議（予定）
計画公表	3 月	公表（予定）
	4 月	計画期間開始（予定）

2 札幌市スポーツ振興計画における主な取組

札幌市では、平成15年3月に策定した札幌市スポーツ振興計画に基づき、市民のスポーツ振興のための取組を行ってきました。

この計画では、スポーツが生活の一部となり、一人ひとりがスポーツに関わっていくことを目指して、「市民一人ひとりが生涯にわたるスポーツライフを創造するために、スポーツによるコミュニティの醸成を進め、そのためのスポーツ環境を整備する」という目標を定めました。

そして、その達成度を測るための指標として、「成人の週1回以上の運動実施率 50%の早期達成」を設定し、「みる・知る」「する」「支える」というスポーツ振興の3つの視点のもと、7つの施策の方針を定め、14の施策と6つの重点施策を設定しました。

また、平成19年度には、札幌市スポーツ振興審議会（当時）から受けた答申「地域におけるスポーツ活動団体への育成支援について」を踏まえて重点施策の見直しを行ない、様々な施策を実施してきました。

施策の方針1 スポーツにふれる

基本的な施策

- ・ トップレベルのスポーツにふれるようにします
- ・ スポーツイベントを楽しむようにします

大規模スポーツイベントなどの誘致などにより、「みる」スポーツのライフスタイル化を図るとともに、市民がトップレベルのスポーツに気軽にふれられるような機会の創出に取り組みました。

また、市民と選手・指導者との交流機会の創出や、市民ボランティアの活用による大会運営など、市民参加の促進を図りました。

主な取組・事業

【2007年FISノルディックスキー世界選手権札幌大会】

世界のトップアスリートの競技に直接ふれることができたほか、多くの関連イベントが実施されました。また、約2,000名の市民がボランティアとして運営に参加しました。

【アスリートによる出前教室～ようこそ！ユキセン】

アスリートを学校等に派遣して、講演や体験活動を行い、子どものスポーツへの興味や関心を高めました。平成21年度から、年々、回数と内容を充実させて実施しました。

【北海道フットボールクラブへの支援】

Jリーグ・コンサドーレ札幌の運営会社に対して、貸付金の交付、ユース育成資金の補助、会場利用料の減免などの支援を行い、札幌初のプロスポーツチームの観戦機会を確保しました。

施策の方針2 スポーツを手軽に知る

基本的な施策

- ・総合的なスポーツ情報を提供します
- ・スポーツ情報を集約する「場」をつくります

総合的なスポーツ情報を提供するための取組を行いました。また、第11回オリンピック冬季競技大会に関する資料や情報が集積されているウィンタースポーツミュージアムの展示を更新しました。

主な取組・事業

【ウィンタースポーツミュージアムの展示の更新】

平成23年2月に展示を更新し、来場者数を増やしました。

【さっぽろ地域スポーツ応援サイト「さぽスポネット」の開設】

平成23年5月にサイトを開設し、身近な地域でスポーツ活動ができるスポーツクラブとして、体育振興会110団体を登録しました。

施策の方針3 「いつでも」スポーツができる

基本的な施策

- ・冬期間のスポーツ活動を活発にします
- ・参加しやすい・利用しやすいスポーツ環境を整えます

家に閉じこもりがちになる冬期間をはじめ、1年を通して活発にスポーツができるようになるための取組を行いました。また少子化や指導者不足等で低迷する学校スキー授業を支援する施策を行いました。

主な取組・事業

【大通公園ウィンタースポーツフェスティバル】

さっぽろ雪まつりの雪像の雪を再利用したスポーツと遊びが体験できるイベントを開催し、多くの市民と国内外の観光客に、気軽に雪に親しんでもらう機会をつくりました。

【通年型カーリング施設の建設】

平成24年9月に、公営では全国初の通年型カーリング施設として建設しました。市民が気軽にウィンタースポーツを楽しむ機会を増やし、大会開催や体験型の観光など集客交流へ活用しました。

【中学校・高等学校スキー学習支援事業】

平成 18 年度から、学校スキー授業へのインストラクター派遣を行ってきた結果、平成 20 年度に 26 校であったスキー授業実施校が、平成 24 年には 88 校にまで増加しました。

施策の方針4 「だれもが」スポーツができる

基本的な施策

- ・スポーツのすそ野を広げます
- ・子どもの時からスポーツに親しむようにします
- ・レベルに応じたスポーツ活動ができるようにします
- ・家族でスポーツを楽しめるようにします

家に閉じこもりがちになる冬期間をはじめ、1 年を通して活発にスポーツができるように、スポーツをする人の裾野を広げる取組を行いました。また、レベルに応じた活動や、子どもの頃からスポーツに親しみ、家族でスポーツを楽しむ機会を増やすための取組を行いました。

主な取組・事業

【総合型地域スポーツクラブのモデル事業】

平成 13 年 12 月に、藤野野外スポーツ交流施設に設置した「Sports Club Sapporo」では、より多くの市民が気軽にスポーツを楽しめるように、用具の貸し出しや、レベル・年齢に応じた教室の開催等により、多様なスポーツメニューを提供しました。

【子ども体力向上事業「げんきキッズ」】

平成 18 年度から、子どもの体力向上に効果的な運動プログラムの開発と事業展開を図り、平成 22 年度には、約 1,000 名の子どもが参加しました。また、開発したプログラム集を市内の保育園や幼稚園、小学校に配布しました。

【ウインタースポーツキャラバン】

子どもと保護者を対象として、身近な場所でウインタースポーツや雪遊びを楽しむ機会を提供しました。平成 21 年度からは幼稚園を対象として実施しています。

施策の方針5 「どこでも」スポーツができる

基本的な施策

- ・スポーツの「場」を拡大します

既存施設の活用や、企業等との連携により、スポーツができる場の拡大を図りました。

主な取組・事業

【学校開放事業の拡大】

地域の身近なスポーツ施設として開放校数の拡大を進め、体育館開放校は、平成15年度の283校から、平成22年度には288校となりました。

【北海道日本ハムファイターズ屋内練習場の市民開放】

平成16年度から、NPO法人北海道野球協議会が屋内練習場を借り上げ、市が補助する形で市民開放を行っており、地元球団を応援する気運を高めるとともに、冬期間に不足する野球の練習場所を提供しました。

【サッカーアミューズメントパークの設置】

道内のサッカー関係団体と連携して、平成20年度に、天然芝サッカー場1面、人工芝サッカー場1面、屋内競技場サッカー場を整備しました。

施策の方針6 スポーツに「かかわる・支える」

基本的な施策

- ・スポーツ指導者を充実します
- ・ボランティアの活動を促進します

競技団体や少年団を統括する札幌市体育協会に対して継続的に助成を行っているほか、地域のスポーツ活動の中心的役割を担うスポーツ推進委員に対して、指導力の向上、活動の充実を図りました。

また、スポーツイベントや大会の運営にあたっては、スポーツ推進委員や、指定管理者が運営管理するスポーツボランティアを活用しました。

主な取組・事業

【スポーツ推進委員の研修】

市・区のスポーツ推進委員会で研修を実施し、各種スポーツ競技やニュースポーツの実践、各区の活動報告等を行い、資質の向上と情報共有を図っています。

施策の方針7 スポーツ環境を調べる

基本的な施策

- ・スポーツに関する調査を進めます

スポーツ施設環境や意識の実態調査、ウィンタースポーツの活性化のための調査・研究を進め、施策に反映を行いました。

主な取組・事業

【調査研究「地域スポーツ及びウィンタースポーツの振興」】

平成17～18年度にかけて、2007年FISノルディックスキー世界選手権札幌大会を活用した「学校における歩くスキー体験モデル事業」の実施など、振興方策の調査研究を行いました。

3 「札幌市民の運動・スポーツ活動実態調査」結果

（１）調査の概要

■目的

今後 10 年間のスポーツ施策の指針となる「札幌市スポーツ推進計画」の策定にあたり、今後の施策展開への参考資料とするために、市民のみなさんの運動・スポーツ活動などの現状を把握することを目的とします。

■調査期間

平成 24 年 7 月 10 日（火）から 8 月 7 日（火）まで（29 日間）

■調査方法

郵送法（返信用封筒を同封）

■調査対象者

18 歳以上の市民 3,000 人

■抽出方法

層化無作為抽出法

■調査内容

- ・運動・スポーツ実施状況について
- ・ウインタースポーツについて
- ・スポーツ観戦について
- ・地域の運動・スポーツ活動について
- ・スポーツボランティアについて
- ・運動・スポーツに関する情報について
- ・札幌市のスポーツに関する施策について
- ・市民懇話会への参加希望について

■回収結果

- （１）回収数 977 通
- （２）回収率 32.6%

(2) 調査の結果

【性別】

	回収数	構成比	送付数	構成比
男性	417	42.7%	1,386	46.2%
女性	556	56.9%	1,614	53.8%
無記入	4	0.4%		
合計	977	100.0%	3,000	100.0%

【年代】

	回収数	構成比	送付数	構成比
18歳19歳	5	0.5%	62	2.1%
20代	65	6.7%	409	13.6%
30代	140	14.3%	518	17.3%
40代	162	16.6%	508	16.9%
50代	178	18.2%	465	15.5%
60代	217	22.2%	507	16.9%
70代以上	208	21.2%	531	17.7%
無記入	2	0.2%		
合計	977	100.0%	3,000	100.0%

【居住区】

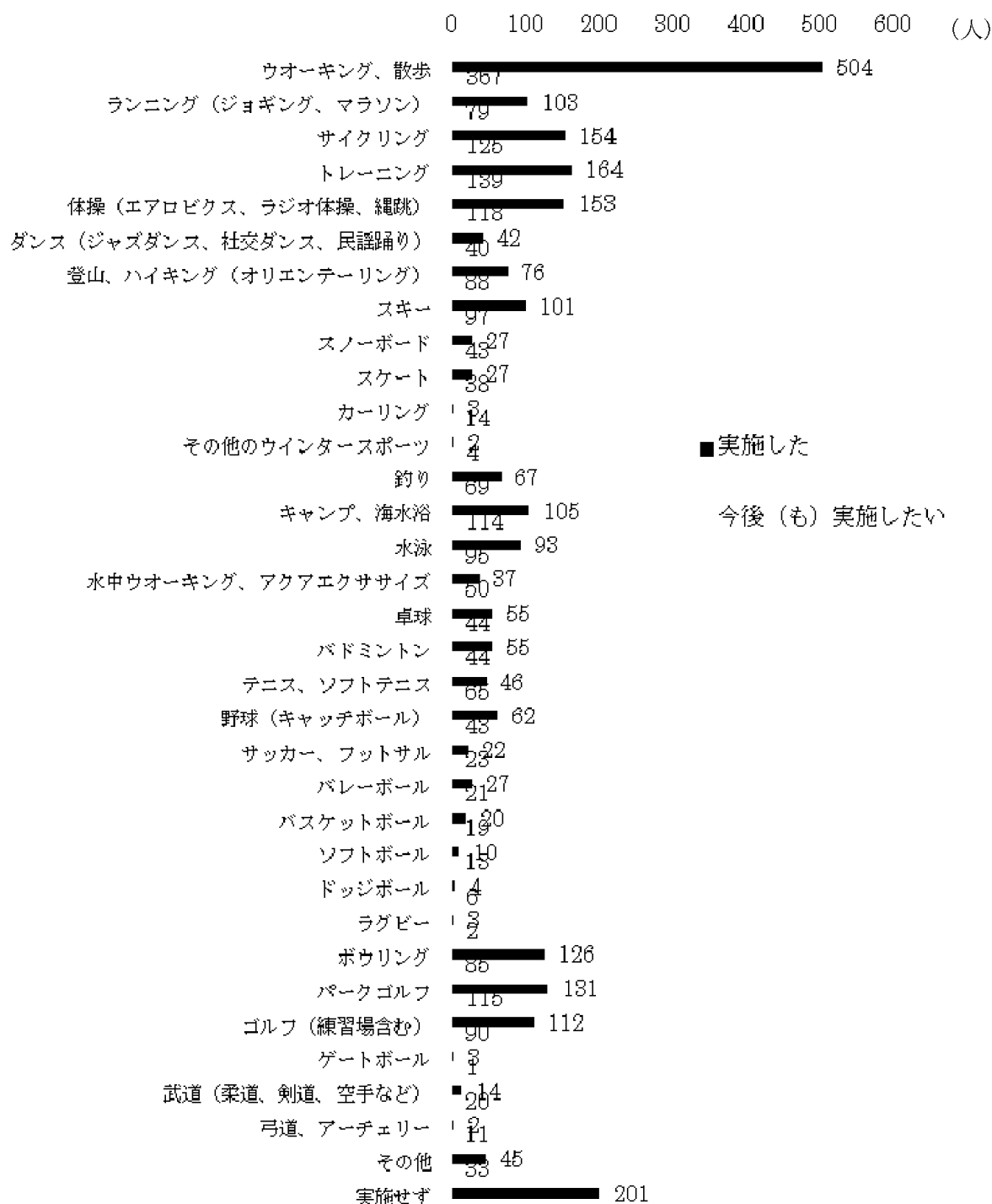
	回収数	構成比
中央区	118	12.1%
北区	129	13.2%
東区	99	10.1%
白石区	94	9.6%
厚別区	84	8.6%
豊平区	107	11.0%
清田区	71	7.3%
南区	86	8.8%
西区	117	12.0%
手稲区	70	7.2%
無記入	2	0.2%
合計	977	100.0%

【職業】

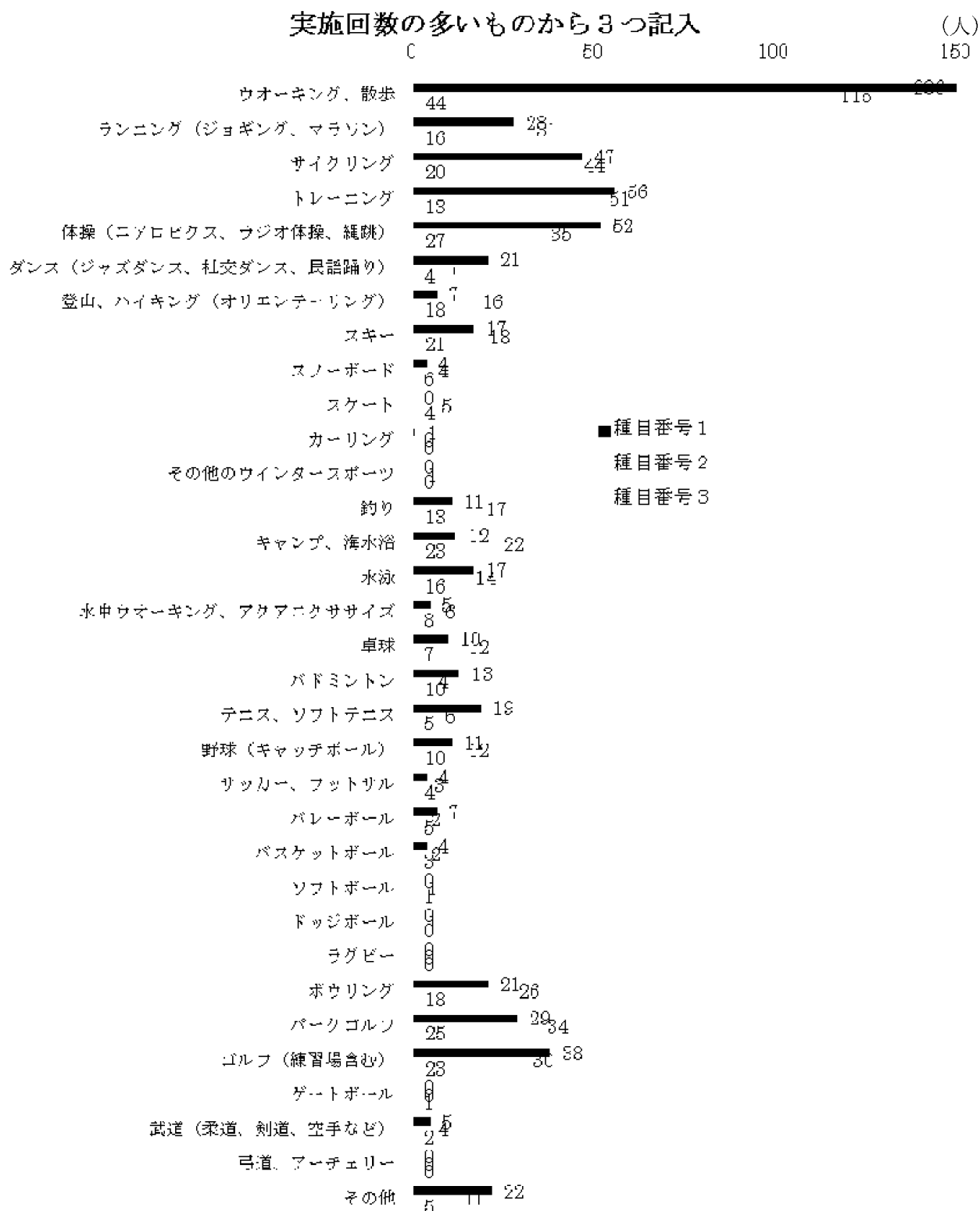
	回収数	構成比
事務職	103	10.5%
経営・管理職	51	5.2%
専門・技術職	90	9.2%
保安業	13	1.3%
販売・サービス業	111	11.4%
清掃・製造・輸送業	30	3.1%
農林水産・建設業	12	1.2%
主夫・主婦	235	24.1%
パート	88	9.0%
学生・無職	178	18.2%
その他	56	5.7%
無記入	10	1.0%
合計	977	100.0%

問1 あなたが、過去1年以内に行った種目があれば○を記入してください。また、今後、行いたいと思っている種目があれば、○を記入してください。

過去1年間にに行った種目、今後（も）行いたい種目



問2 問1で「実施した」に○をつけたもののうち、実施回数の多いものから3つ記入してください。

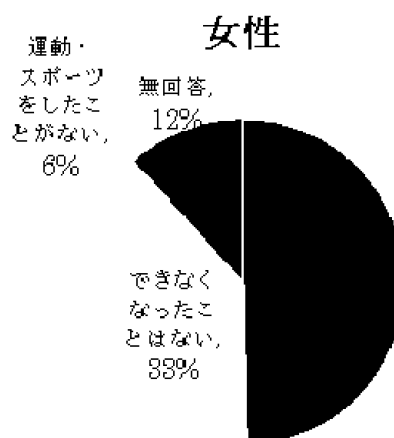
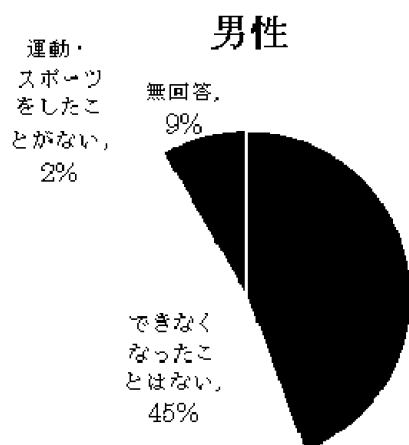


問3 あなたが下表のそれぞれの時期の運動・スポーツ活動歴について、あてはまる欄に○をつけてください。

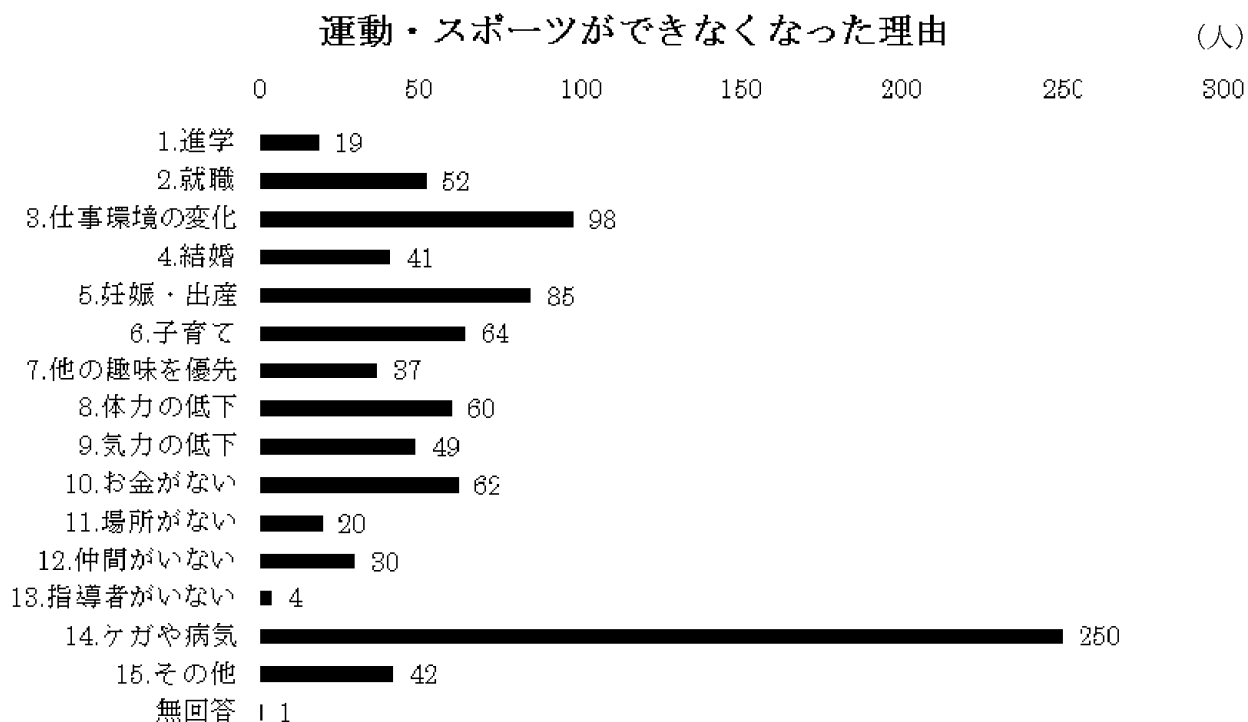
世代区分	学校部活動や サークル活動	民間スポーツ クラブ	スポーツ教室	集まり クラブチームや	地域住民による スポーツ活動	その他の団体や 集まり	個人	行っていない	無回答
a. 0歳～5歳 (未就学)	5	26	0	0	7	7	53	269	607
b. 6歳～11歳 (小学生)	207	94	14	0	78	28	74	145	414
c. 12歳～14歳 (中学生)	496	20	10	1	26	14	56	113	296
d. 15歳～19歳	365	20	6	33	15	21	84	171	302
e. 20歳～29歳	84	90	23	160	20	48	162	169	332
f. 30歳～39歳	0	79	23	113	22	57	175	143	422
g. 40歳～49歳	0	65	19	75	20	47	152	115	535
h. 50歳～59歳	0	67	15	48	15	35	121	73	648

問4 現在まで何かの理由で運動・スポーツができなくなったことがありますか。

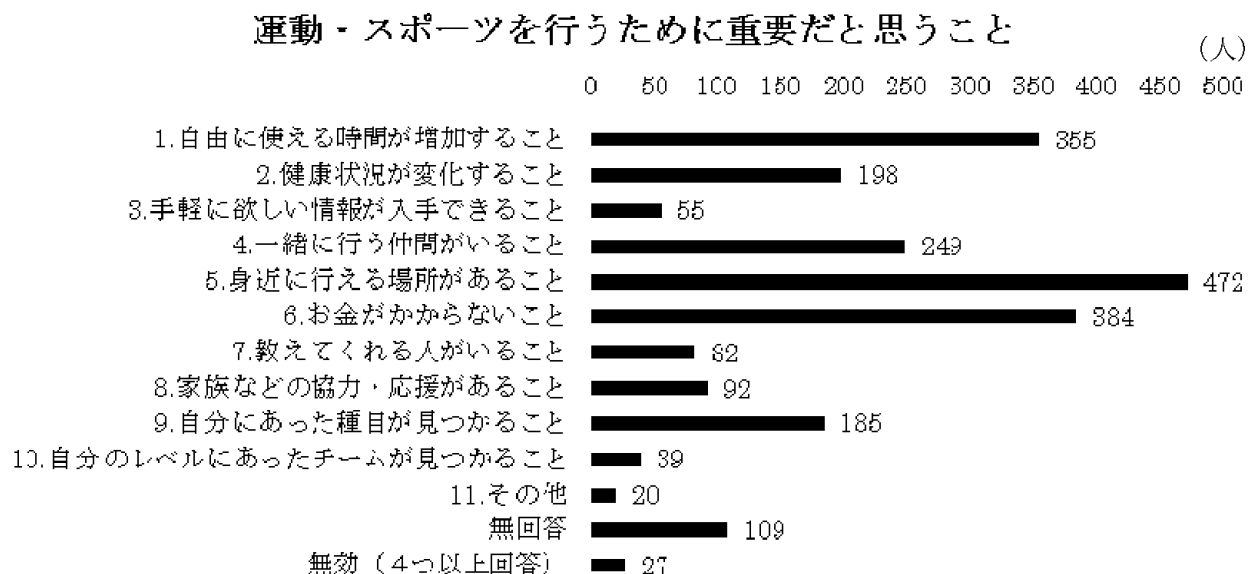
	できなくなった ことがある	できなくなった ことはない	運動・スポーツを したことがない	無回答	計
男性	185	188	9	35	417
女性	276	182	33	65	556
計	461	370	42	100	973



問5 (問4でできなくなったことがある方に) できなくなった理由はなんですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。



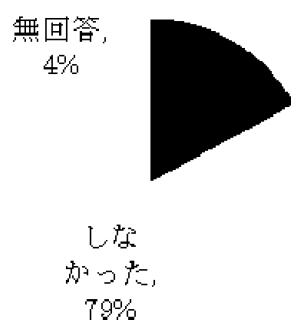
問6 あなたが新しく運動・スポーツを始める、もしくは今以上に運動・スポーツを行うためには、どのようなことが重要だと思いますか (3つまで)。



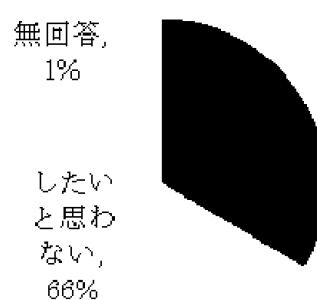
問7 あなたは、過去1年間にウィンタースポーツをしましたか。

問8 (問7で「しなかった」と答えた方に) 今後ウィンタースポーツをしたいと思いますか。

ウィンタースポーツの
実施状況

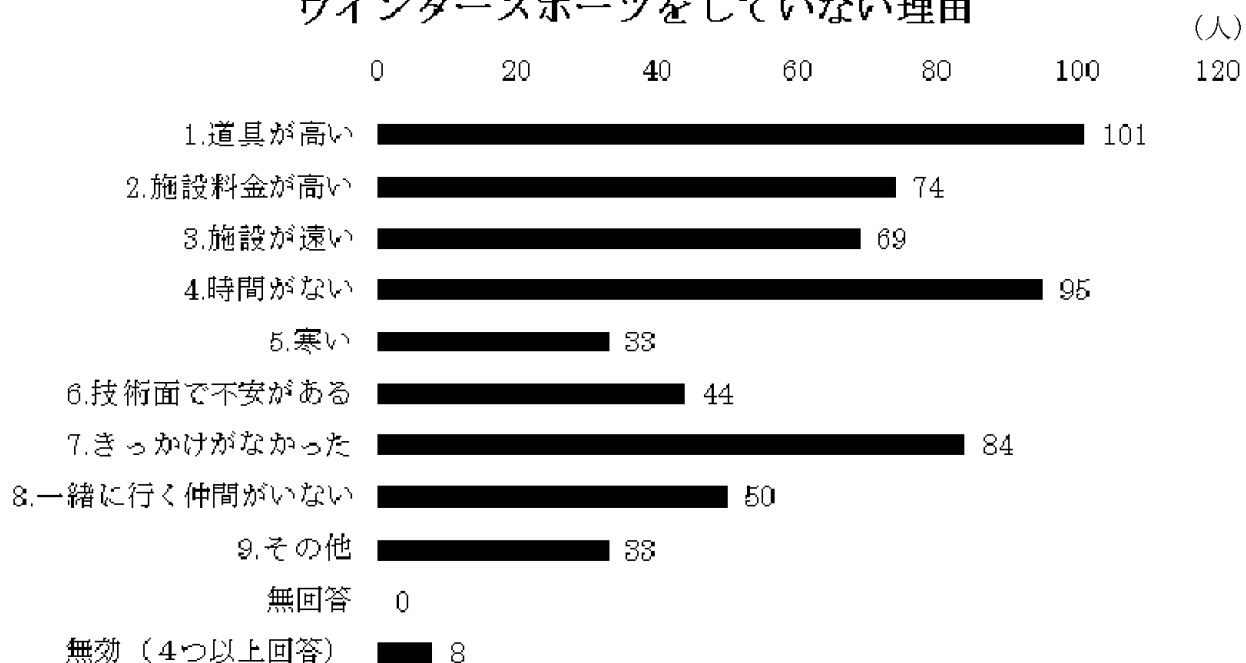


今後ウィンター
スポーツをしたいか



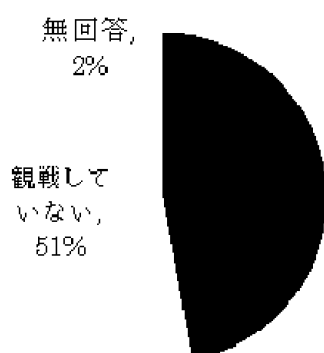
問9 (問8で「したいと思う」と答えた方に) あなたがウィンタースポーツをしていない理由はなんですか。(3つまで)

ウィンタースポーツをしていない理由



問10 あなたは、1年間に直接スポーツ観戦をしましたか。(テレビ観戦は含みません)

この1年で スポーツ観戦をしたか

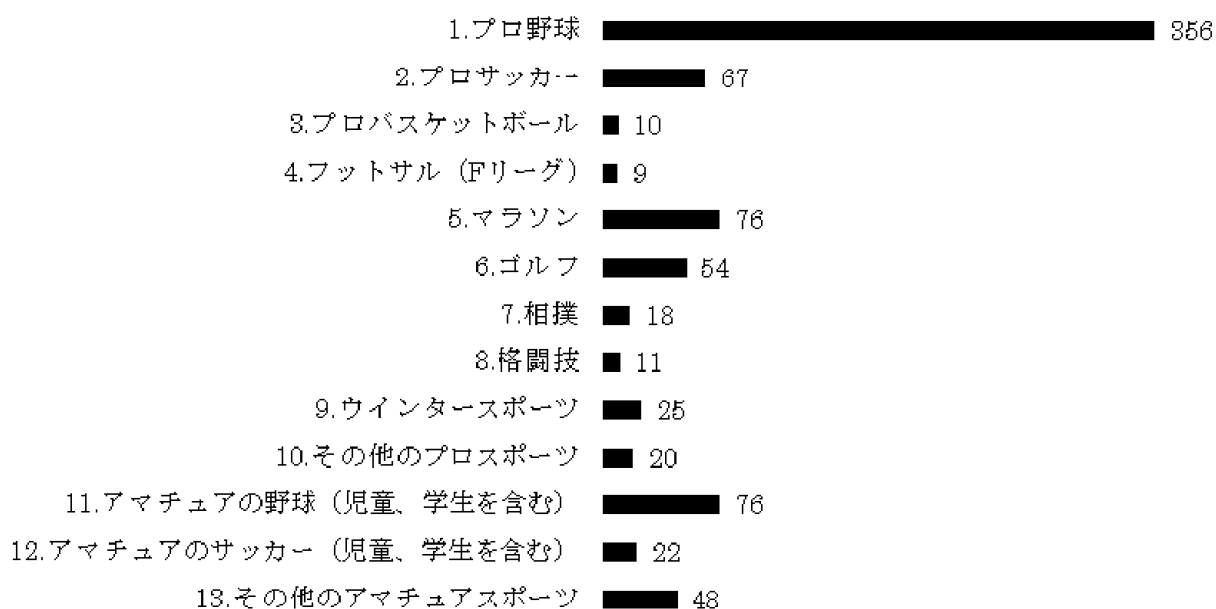


問11 (問10で「観戦した」と答えた方に) 観戦したスポーツはなんですか。

観戦したスポーツは？

(人)

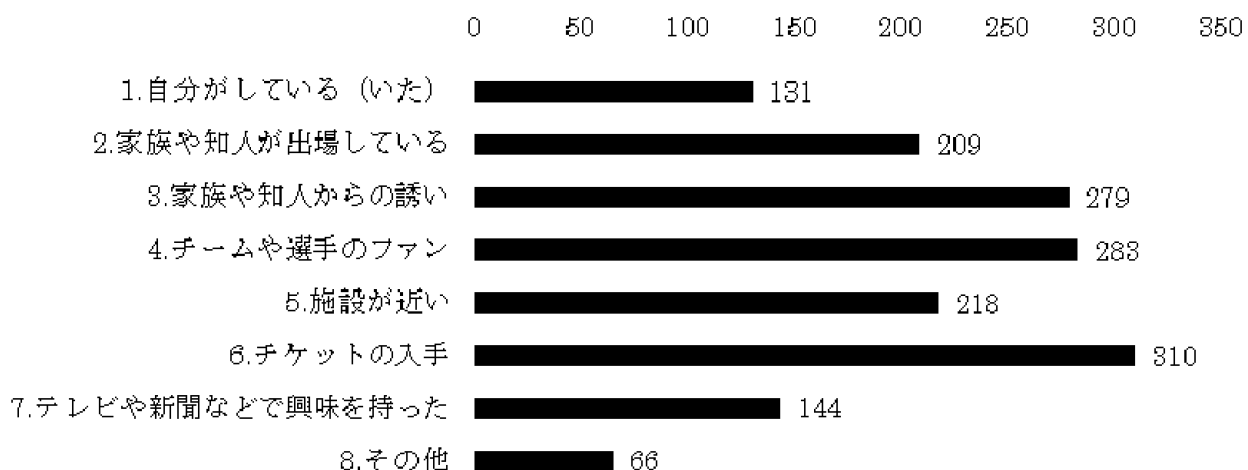
0 50 100 150 200 250 300 350 400



問 12 どのようなきっかけでスポーツ観戦を始めましたか。問 10 で「観戦していない」と答えた方は、どのようなきっかけがあればスポーツ観戦をしたいと思いますか。

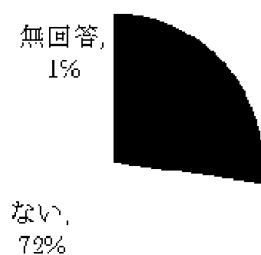
スポーツ観戦をするきっかけ

(人)

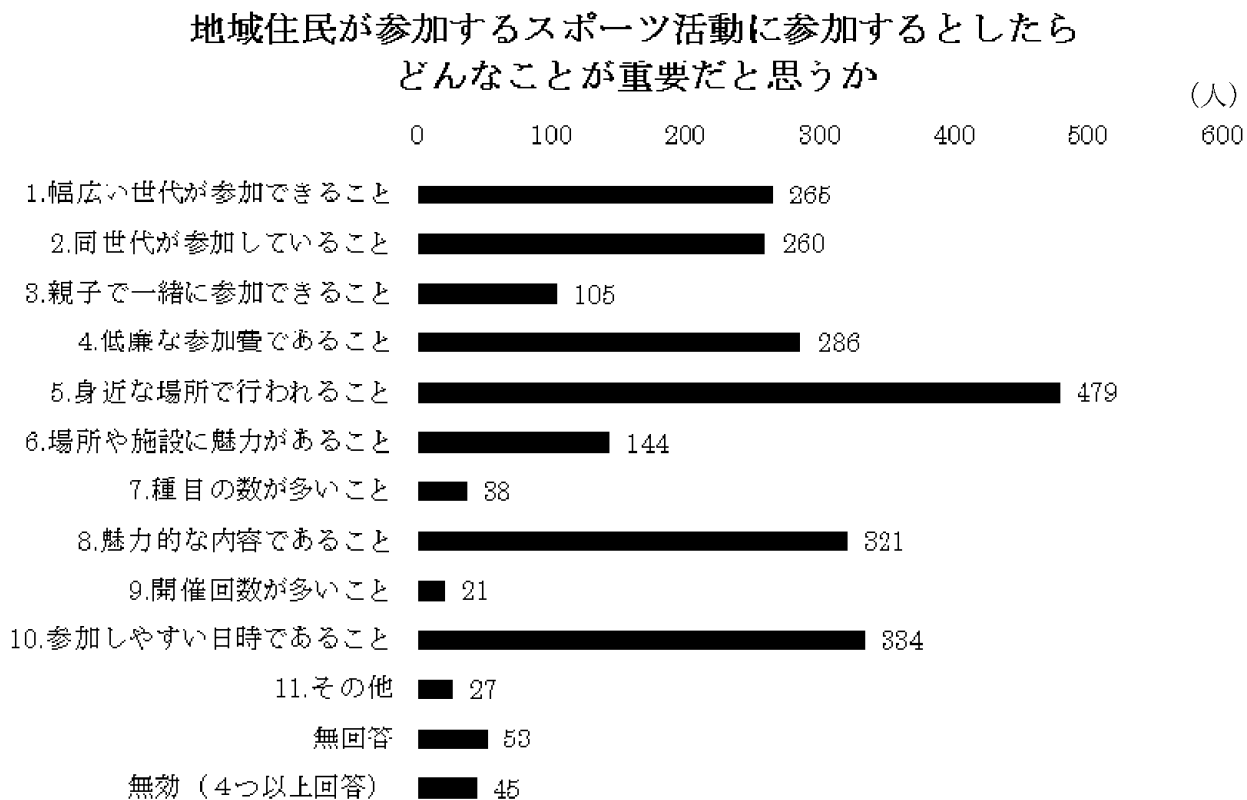


問 13 あなたは今まで、地域住民が参加するスポーツ活動（町内会やスポーツ少年団など）に参加したことがありますか。

地域住民が参加する スポーツ活動への参加

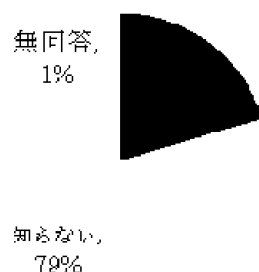


問 14 あなたが、地域住民が参加するスポーツ活動に参加するとしたら、どのようなことが重要だと思いますか。（3つまで）



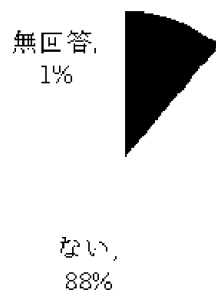
問 15 札幌市内には、地域に根ざしたスポーツ活動を行っている「体育振興会」と呼ばれる地域住民で構成された団体があります。あなたは「体育振興会」を知っていますか。

**体育振興会を
知っているか**



問 16 あなたは、スポーツボランティアをしたことがありますか。

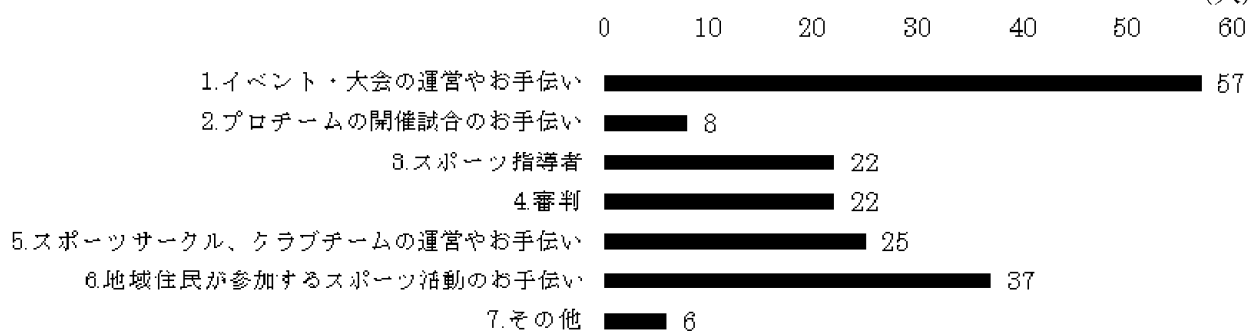
スポーツボランティアの 経験



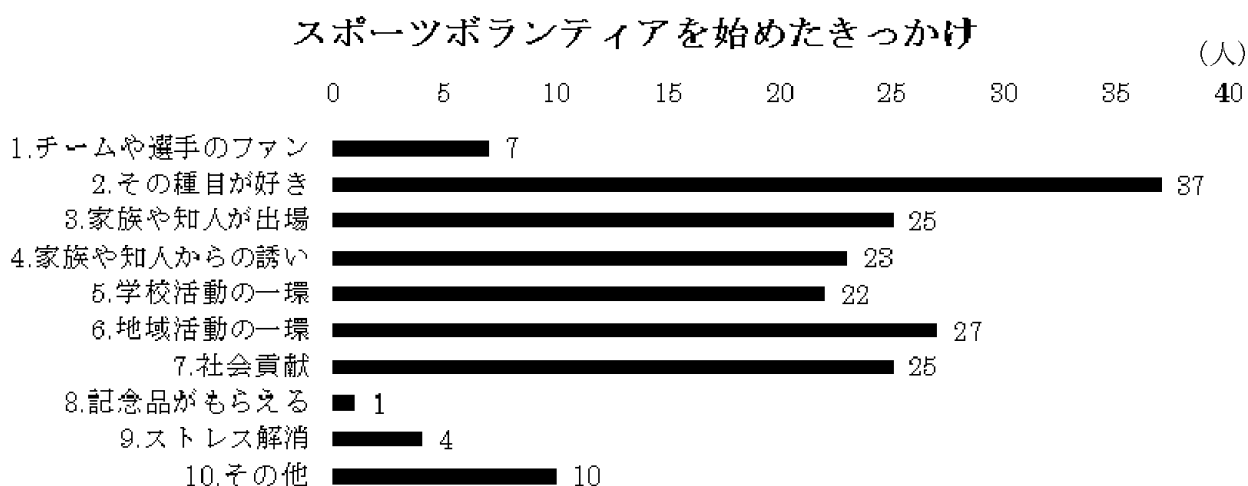
問 17 （問 16 で「ある」と答えた方に）あなたがしたことのあるスポーツボランティアは何ですか。

したことのあるスポーツボランティア

(人)

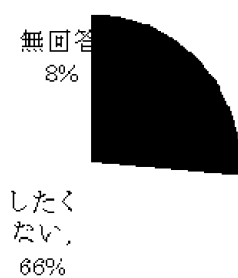


問18 (問16で「ある」と答えた方に) どのようなきっかけでスポーツボランティアを始めましたか。



問19 あなたは今後(も)スポーツボランティアをしたいと思いますか。

**今後(も)スポーツ
ボランティアをしたいか**

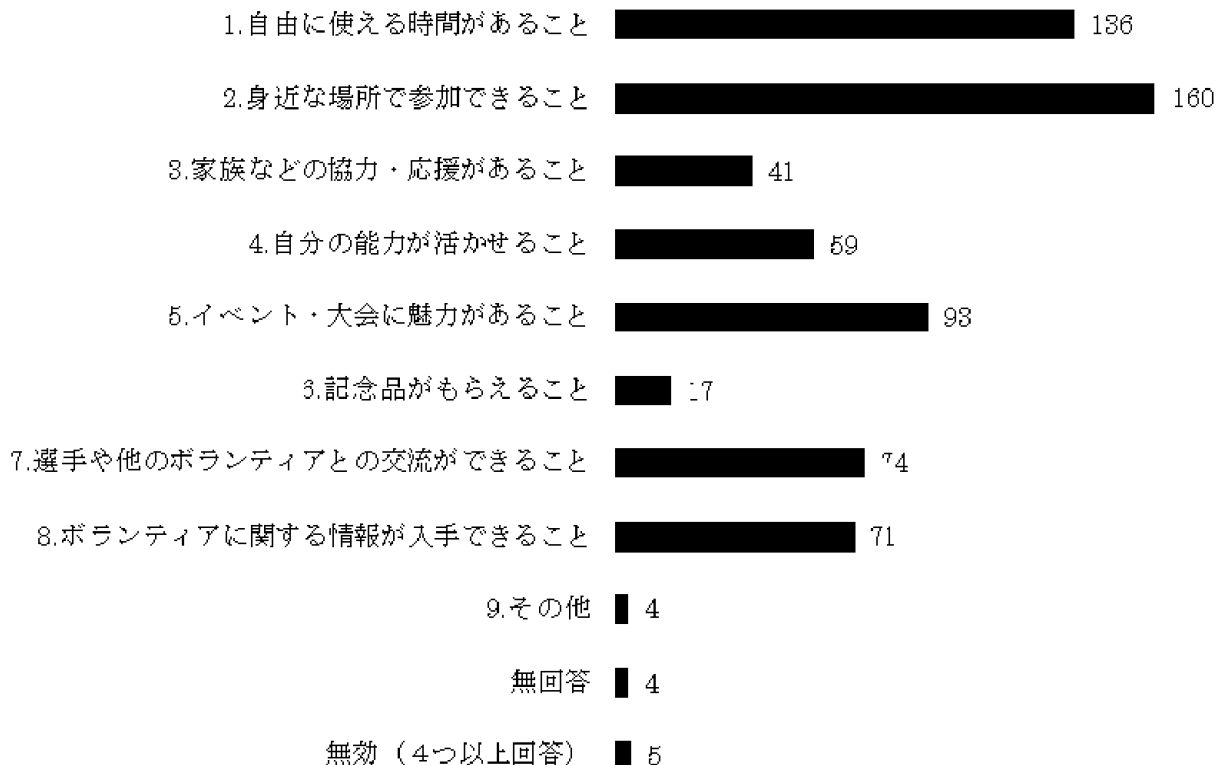


問 20 （問 19 でしたいと答えた方に）あなたがスポーツボランティアをするためにはどのようなことが重要だと思いますか。（3つまで）

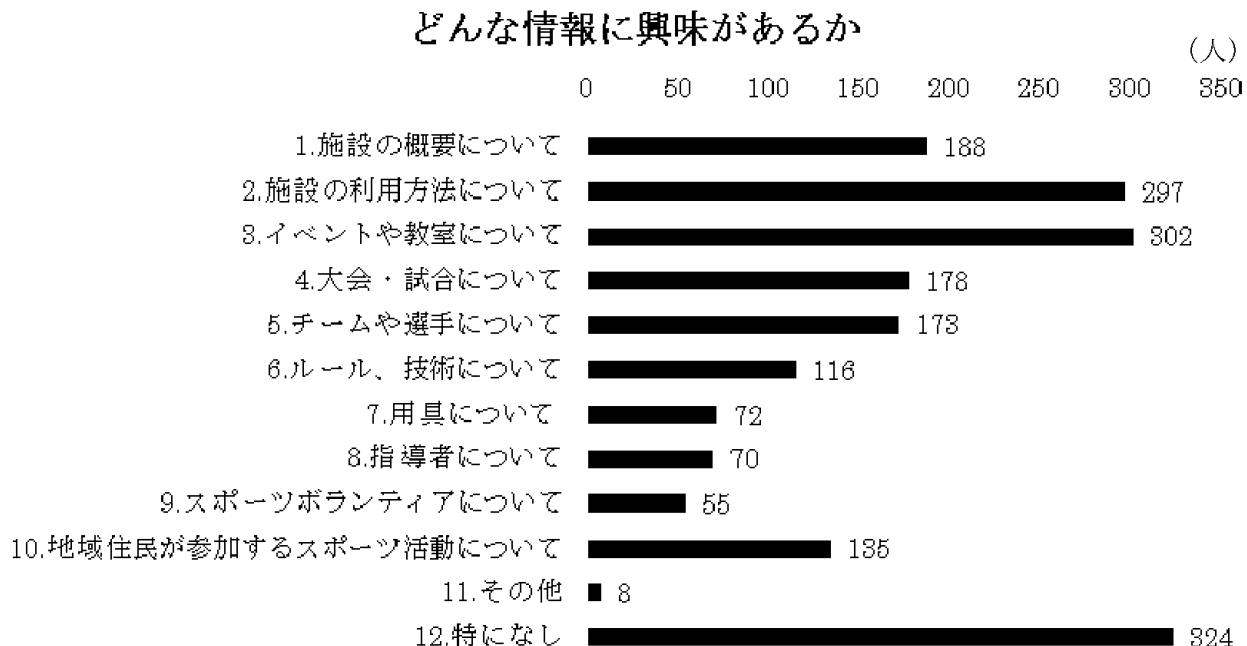
スポーツボランティアをするために重要なこと

(人)

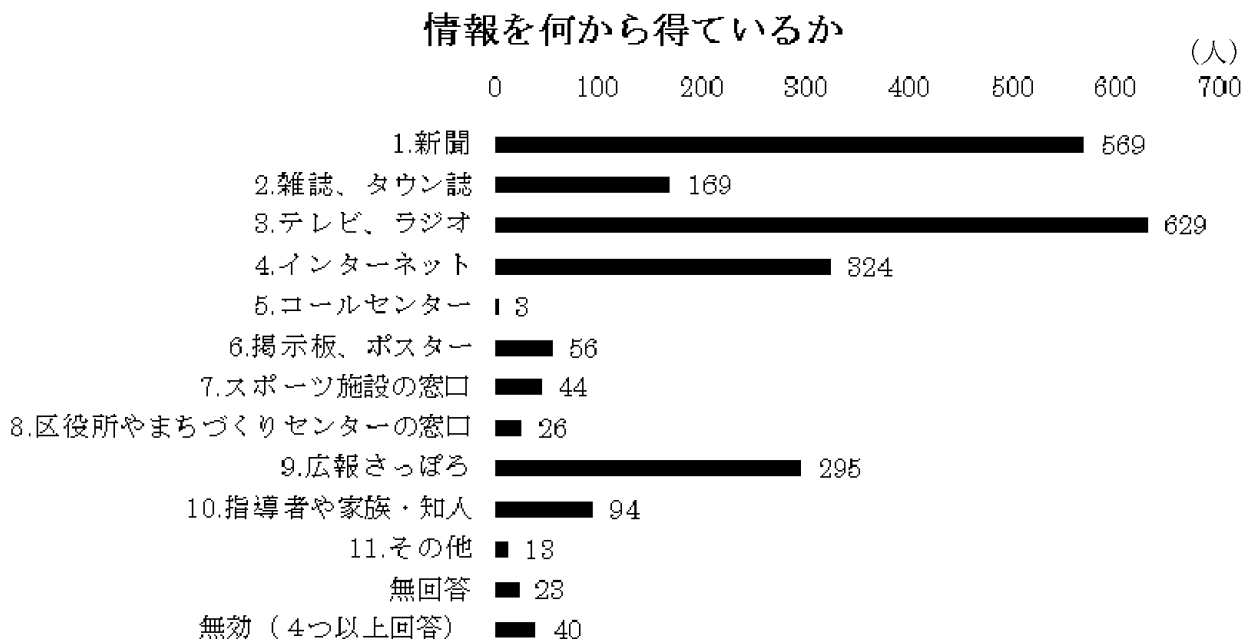
0 20 40 60 80 100 120 140 160 180



問 21 あなたは、運動・スポーツに関して、どんな情報に興味がありますか。

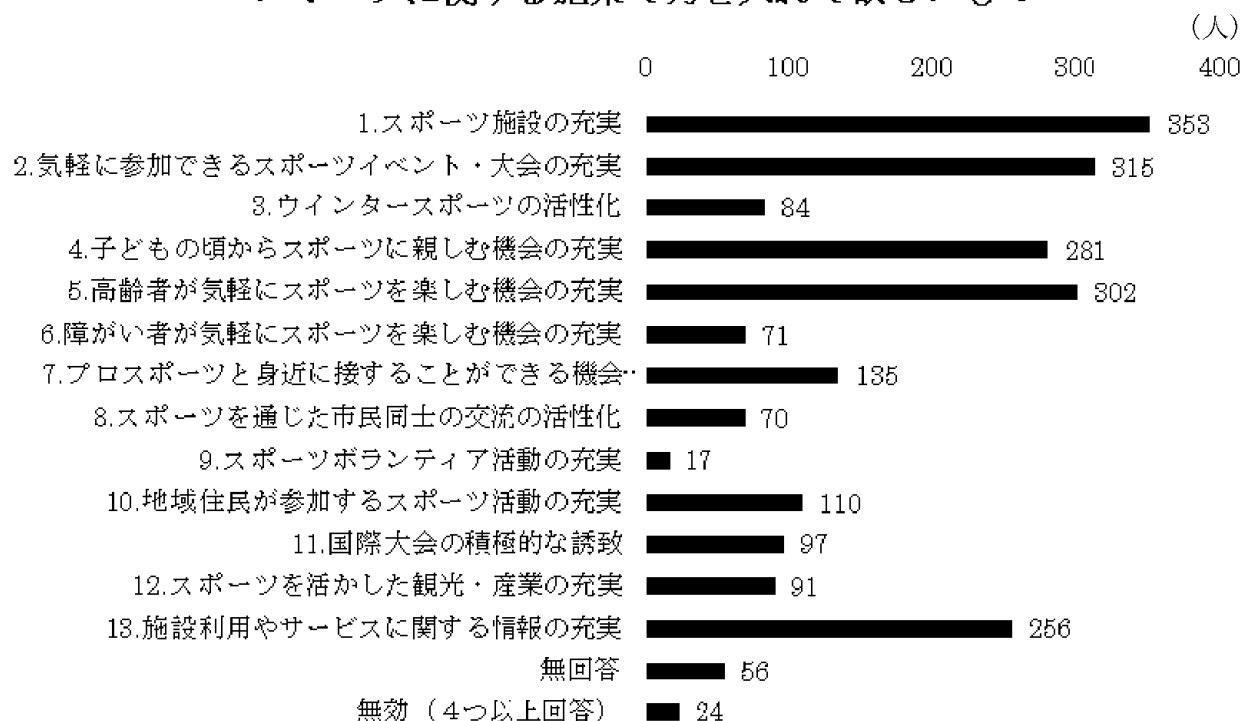


問 22 あなたは、運動・スポーツに関する情報を何から得ていますか。(3つまで)

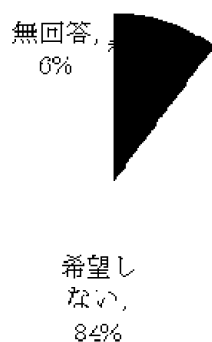


問 23 あなたが、札幌市のスポーツに関する施策に対して、「力をいれてほしい」と思うものはなんですか。（3つまで）

スポーツに関する施策で力を入れて欲しいもの



市民懇話会への参加希望



4 「札幌市スポーツ推進計画の策定に係るスポーツ関係団体ヒアリング」結果

<第1回> 実施期間 平成24年（2012年）9月3日～7日

対象団体 札幌市体育協会加盟競技団体 39団体

スポーツ施設指定管理者 3団体

トップスポーツ団体 4団体

意見要旨	主な意見
スポーツへの関心を高めたり、参加を促すには「情報発信」に力を入れる必要がある	○スポーツに興味、関心を持ってもらったりするのに「情報発信」は重要。 ○「見る」から「する」につなげるには「広報活動」が重要。以前は、「広報さっぽろ」がその役割を果たしていたが、今は掲載情報が限られている。 ○スポーツに参加したいと思った時に、一元的に情報が得られる場（ホームページや窓口）があると良い。各競技団体の主な年間行事を紹介する広報誌を年1回でも発行すると良い。 ○マイナーな競技の認知度を上げるために「情報発信」が重要。どのようにすれば効果的か第三者のアドバイザーなどがいると良い。
スポーツのすそ野を広げたり、人材を発掘・育成して行くには、子どもの頃からスポーツに親しめる環境づくりが必要である。	○底辺を広げる上で、子どもの頃からスポーツに親しむことが重要。学校教育の果たす役割は大きいが、体育授業が減っていることや指導者が不足しているのが課題。また、親が共稼ぎで子どもをスポーツクラブに送り迎えできないなどといった社会的な課題もある。 ○子どもの頃からスポーツに親しむ事が大切で、「見る、ふれる」機会をつくる事が重要。だが、「する」は身近なところでやれる場が無い、団体に属しないとやれないなどのハードルがある。人間関係がうまくつくれずに部活動をやめる子もいる。 ○スポーツ関係団体が協力しあって、ウインタースポーツフェスタのような啓発イベントを開催する事も有効かもしれない。 ○各団体が連携し、一定の体力のある子どもを対象に、いろいろな種目を体験してもらえるイベントを開催し、人材発掘（スポーツタレント発掘事業）を。音頭は市が取ってくれると良い。 ○U12、U15、U18など世代別のチームを持つ事で、プロを目指す子どもたちの受け皿になれる。 ○スポーツに親しむイベントを開催し、親子で参加してもらいたいと思っているが、親の参加が得られない。

意見要旨	主な意見
高齢者のニーズに合わせたスポーツに親しむきっかけづくりをしていく必要がある。	○スポーツ施設の高齢者利用が増えている。高齢者はスキルアップより、仲間づくりを目的とする方が多い事を意識した事業計画づくりが必要。 ○シニア大学との連携などにより、高齢者が仲間とスポーツを始めるきっかけづくりが必要。 ○シニア（40歳以上）を対象としたイベントを開催したことでシニアの競技団体登録者が増加した。
これからは、生涯スポーツ、地域スポーツに力を入れて行く必要がある。	○これからは、生涯スポーツ、地域スポーツに力をいれて行くべき。地域スポーツクラブのような、学年や年齢で途切れずにスポーツ指導を行える機関が必要。 ○少年競技者の減少が課題。学校のクラブ活動を卒業した後の受け入れ体制が無い。
障がいのある人もスポーツに親しめるための環境整備や体制づくりが必要である。	○障がいのある人を受け入れる取組をしているが、安全を確保するための会場整備や、受け入れノウハウ、体制の整備が必要。 ○障がいのある人へのスポーツ指導をしているが、介護しながら指導できる技術が求められる。指導者の学習支援の補助を。
競技団体と行政が協働して、誰もが気軽にスポーツに親しめる入り口づくりを工夫して行く必要がある。	○底辺を広げる上で、遊び8割、安全2割で誰もが気軽にスポーツに親しめる入り口づくりが大切と考え、いろいろ工夫をしている。区主催で、家族ぐるみで参加できるイベントを開催してはどうか。 ○夏、冬毎に各団体が協力しあって市民が様々なスポーツに親しめるイベントやスポーツ教室を実施してはどうか。障がいのある人のスポーツ大会も団体が協力しあって実現している例もある。 ○用具を揃えるのが大変との指摘も有るので、貸し出しサービスなども考えて行きたい。
トップアスリートを育てるために専用の競技施設の整備が必要である。	○トップアスリートを育てることが、底辺を広げる事になる。時代にあった全国大会や国際大会ができるよう施設の更新やアクセス環境の向上が必要。特に、観覧席の設置や控室の充実を進めて欲しい。 ○武道館や自転車競技場、ソフトボール場、フットサルなどの専用施設が無い。
札幌の魅力をいかし、国内国外へ向けてスポーツツーリズムの開拓に力を入れて行く必要がある。	○スポーツツーリズムの観点から、札幌の魅力をいかせるウインタースポーツや夏期にも運動しやすい環境のアピールに力を入れ、子どもの頃から体験できる環境づくりや、観光客の誘致にもつなげる。 ○冬は沖縄、夏は札幌と地域間の交流もできると良い。 ○施設紹介のホームページを、英、台、中、韓の4カ国語で発信し、観光客や海外からの施設利用の誘致に努めている。 ○他のスポーツ施設との「共通チケット」や、「まちなめぐりパス」に参加するなどしている。

意見要旨	主な意見
指導者の高齢化が進んでいることから、新たな指導者の育成に力を入れていく必要がある。	○指導者が高齢化している。地域のスポーツ指導ができる人材の発掘活用が必要。 ○各競技団体が連携し、教員を対象とした指導など、指導者育成に取り組んでは。 ○子どもの父兄も含め、ウォームアップとクールダウン、傷害予防、救急措置などを教える指導者講習会を開催し、指導者の育成に努めているが資金的支援を。
スポーツを「支える」寄附文化の醸成や、ボランティアの育成、コーディネートに力を入れていく必要がある。	○プロスポーツでは、数百人規模のボランティアに協力してもらっているところもある。 ○スポーツを「支える」環境づくりのために、市民や企業の寄附文化の醸成やボランティアへの参加を促す取組が必要。 ○ボランティアの募集や、団体の垣根を越えて横断的に活躍してもらえる場やネットワークづくりが重要。競技の普及啓発や緊急時の対応を考えて、ボランティアの質の向上など、統一的な教育が必要。 ○現在は、大学の学生ボランティに協力してもらっている。希望すればボランティアになれる仕組みと、登録し現場とつなげる機構が必要。 ○リハビリやマッサージなどができる専門学校の学生ボランティアの育成や、市民病院と連携して救護ボランティアの体制づくりなどを、行政と協力し合ってやっていけないか。
スポーツを通じ地域との連携に力を入れていきたい。	○プロスポーツも、地域の祭りなどに出向き、地域と連携したり、市民に還元する場を設けていきたい。
行政の役割として、企業やマスコミなどとの橋渡しや、広報に力を入れて欲しい。	○行政には、活動を「支える」意味で、自ら大会やイベントの後援団体になって欲しいし、後援団体やスポンサーの紹介、マスコミの紹介など、「橋渡しの役割」をして欲しい。 ○大会や体験教室の開催に努めているが、参加者が少ないのが悩み。学校への告知やPR、会場の提供について行政の支援が欲しい。
競技団体のノウハウをいかし、学校や地域におけるスポーツの普及を支援したいが受け皿が無いのが課題。	○部活動と社会体育の枠組みがもっと連携し、大会への参加や指導者の派遣など、社会体育の活性化に寄与したら良い。 ○学校教育や地域の場実践者や指導者、審判員の派遣をする用意や、イベントや大会の企画ノウハウはあるが、受け皿が無い。
既存の施設をもっと活用しやすいように、管理運用面の見直しを行う必要がある。	○札幌市所有以外の施設も含め、利用時間や利用機会が限られるなど運用面で課題がある。学校など既存の施設の管理運用のあり方を見直せば、新たな施設をつくらなくてもまわして行けるのでは。 ○茨戸のボート、藤野のリージュなど、それぞれの地域で特徴あるスポーツを推進する事が望ましい。

意見要旨	主な意見
他の競技団体との情報交流や、連携の機会がもっとあると良い。	○他競技団体の、選手発掘、普及の取組について情報交換する場が欲しい。今回のヒアリングのように各団体が話し合う場、交流の場も大切。市のコーディネートに期待したい。 ○冬季のスポーツと、夏競技の冬季間トレーニングの連携などできると良い。
安心してスポーツに親しめる環境づくりが必要である。	○健康スポーツ、競技スポーツを研究、指導、医学、リハビリなどの面から支える、国立スポーツ科学センター（JISS）の地域版のような機関が必要。 ○スポーツ安全教育の推進を計画の方針や基本施策に盛り込むべき。
有能な人材が札幌に残れる雇用環境を形成していく必要がある。	○役所や地元企業がスポーツを職業としていける雇用の受け皿をつくり、人材が外部に流出しないようにすべき。
札幌市は北海道のスポーツの牽引役になって欲しい。	○基本の考え方に、北海道のスポーツの牽引役としての札幌の役割を明記して欲しい。

＜第2回＞ 実施期間 平成24年（2012年）9月21日

対象団体 障がい者スポーツ団体 1団体

意見要旨	主な意見
新しい計画の基本的考え方や重点を置くべき点について	○障がい者スポーツの普及・啓発をすすめる上では、保健福祉局とも連携をとりながら、市としての方向性をしっかり持って進めてほしい。障がい者スポーツの普及・振興は高齢者スポーツの普及・振興とも共通するものがある。 ○障がいと言っても、身体、知的、精神の3つの区分があり、障がいの種類によっても区分がある。今後プランをつくっていく場合は、障がい福祉課と議論をしながら、区分にも着目してほしい。 ○「すずらんピック」は全国障害者スポーツ大会の予選を兼ねている。しかし大会に参加するにも費用負担の問題があり、出たくても出られない人もいる。助成制度などもなければ、結果として良い選手が育っていかない。 ○中央体育館の改築にあたっては、設計の段階から身体障害者福祉協会の声を聞く場を設けてもらいたい。作る時には、障がいのある人の使い勝手の良いものにしていただきたい。 ○障がい者専用のスポーツ施設ができれば、障がい者スポーツのすそ野は広がると思う。全国各地に事例はある。
計画を具体化する上で、各団体が取組める事、取組を活性化させる上で行政に求められる事	○障がいのある人がスポーツに取り組む際に、費用負担が大変である。障がい者スポーツクラブへの助成で用具の購入などの応援をしたり、年に2回、かわら版のような障がい者スポーツ新聞を発行してPRをしたりしている。 ○障がい者スポーツ指導員の育成を行っている。障がいの属性をきちんと理解した上で、どのような指導をするか、障がいのある人と障がいのない人がともにスポーツをする、

意見要旨	主な意見
	という観点から講習している。札幌市では 300 名弱が登録しており、その方々は、大会などでもボランティアで運営を担っている。 ○障がい者関係の団体と、各競技団体で理事会を構成し、年度ごとにどういう事業を展開するか検討している。 ○障がい者スポーツは特殊だと思われている面もあるが、障がい者スポーツで「ボッチャ」という競技があり、お年寄りも出来る。そういうスポーツを一般の方にも宣伝・普及し、一緒にやっていくのも良い。 ○カーリング場は、入り口の段差や身障者用の駐車場から正面までロードヒーティングがあるのかどうか、トイレの向きが使用しやすいかなどが気になった。施設ができた時に、身体障害者福祉協会がバリアフリーのチェックをしているが、今後できる施設について、バリアフリー・ユニバーサルデザインをきちんとやってほしい。
市民ボランティアの活用や、他団体のノウハウの活用、団体間の連携の必要性や実績について	○ボランティアセンターに依頼をしてはいるが、個人での申込者はあまりいない。大会などでは、中・高校生、専門学校生、社会貢献をしたいという企業などがボランティアをしてくれている。また、各競技団体にも運営を手伝ってもらっている。
その他	○パラリンピックでメダルを取った影響で、フェンシング教室の申込が増えたそう。関心のなかった障がいのある人もやってみようという気になったようだ。しかし、まだまだメディアの取り上げ方も少ない。 ○障がい者のクラブ（バスケットや卓球や水泳など）では、会員数の減少、年齢構成の高齢化、リーダーの人材育成が進まないなどの課題がある。 ○練習場所の確保が難しい。身体障害者福祉センター内の体育館も利用で溢れている。平岸プールや区体育館などは便宜を図ってくれるが、サッカーのような大きな面を使う屋外競技は特に難しい。区体育館の使用や、学校開放などの申込は一般の方と全く同じである。 ○区の体育館は障害者手帳を持って行けば利用料は免除になるが、個人で行く人はほとんどいないだろう。対応してくれるスタッフが必要となる。障がい者スポーツクラブの会員として利用している。

5 「札幌のスポーツ推進に関する市民懇話会」結果

実施期間 平成24年（2012年）9月29日（土）

午後1時30分～午後4時30分

会 場 札幌市中央区北2条西2丁目 STV北2条ビル 6階会議室

参加人数 66人

（1）市民懇話会の目的

「札幌市スポーツ推進計画」の方針や施策において、市民の視点から何に重点をおくべきかを検討するため、市民の皆さんが、スポーツの振興策やスポーツによるまちづくりのアイデア等について、自由に語り合う懇話会としました。

（2）市民懇話会の実施手法

市民アンケート「札幌市民の運動・スポーツ活動実態調査」の回答者のうち、市民懇話会に参加を希望された市民（97人）を対象としました。

当日参加された66人を、1卓6人、計11卓のグループに分け、それぞれの卓ごとに配置したコーディネーター（進行役）の進行により、2つのテーマについての意見等をまとめ、提言を行いました。

（3）市民懇話会の議論のテーマ

テーマ1

「市民、誰もが生涯にわたりスポーツを通じて、健康や生きがいを得る機会を保障するために、行政、市民、スポーツ関係団体などが、どのような取組みをすることが大切でしょうか。」

テーマ2

「スポーツを通じて、人と人とのつながりや、地域コミュニティの絆を育む」ために、「環境などの特性を生かし、札幌らしいスポーツ文化を創造し、まちに魅力を向上させる」ために、行政、市民、スポーツ関係団体などが、どのような取組みをすることが大切でしょうか。」

(4) グループ提案のまとめ

テーマ1	
提案要旨	グループからの提案（丸数字はグループ番号）
施設の利用やサービスに関する情報提供の内容を充実させ、利用しやすくする。	○スポーツに関する情報を広報さっぽろやホームページでわかりやすく紹介。③ ○スポーツ施設などの情報の充実。④ ○掲示板等を利用してリアルタイムな見やすい情報を気軽に発信する。⑤ ○ネットの活用・公共交通での広告など目につくところへの情報発信をする。キャッチフレーズも工夫を！全ての人にわかりやすく。⑥ ○情報が入ってこない・・・既存の情報発信、もっと簡単に見えるようにして欲しい。（インターネットなど）⑦ ○希望者の情報が入ってくるシステムづくり。（メーリングリスト、SNSなど）⑦ ○中身が見えるような詳細な情報発信を！（広報さっぽろなど）⑦ ○利用できる施設、参加できる地域スポーツの情報をわかりやすく提供する。⑨ ○行政・関係団体（地域）からの情報発信の充実。⑩
利用時間の拡大などスポーツ施設をもっと利用しやすく、身近な既存の施設も活用を。	○身近にスポーツできる施設がもっとあるといいな。（遅くなくても参加できる、スポーツできる時間を市民が持てる）① ○体育館・施設の休館日をなくし、利用時間も長くして、いつでも誰もが使えるように！ボランティアも活用。③ ○既にある公共施設の敷地の一部を活用する等して（散歩コースなど）身近で運動できる環境をつくる。⑥ ○施設の利用時間を拡大しよう。⑧ ○スポーツ施設に行くための交通体系の充実。⑩ ○スポーツを冬場にも行なえる、交流の場として身近な施設を活用したい。（児童館や会館などの身近な場所で）⑪
指導者のいる体制づくりが大切。	○施設に指導者がちゃんといると、スポーツに関わりやすくなる！① ○幅広く、スポーツの情報を教えたり、紹介等してくれる「スポーツナビゲーター」が身近な場所や施設に居ると良い。③ ○スポーツ教室等の回数を増やす。安く、無料で。⑨ ○指導者の育成と情報の発信。⑩ ○組織の継続・質の確保に重要な若い実力ある（大学生も）指導者確保のためにお礼が重要！⑪
スポーツ施設の利用料を安くしてほしい。	○市でパークゴルフ場をもっと安く運営してほしい。パークゴルフは世代を問わず、家族間のコミュニケーションにも役立つ。② ○サービスチケットなどを活用して経済的負担を減らす。（ポイントカード等）⑤ ○スポーツ施設の利用料を安価もしくは無償とすることで利用の促進をはかる。⑩

テーマ1	
提案要旨	グループからの提案（丸数字はグループ番号）
体育振興会の取組をもっとPRする。学校開放を積極的に行う。	○施設をもっと活用したい！学校の体育館（屋内）などを積極的に地域に開放する。⑤ ○場所がない。学校開放など既存の施設の活用。⑦ ○体育振興会等の取組をこまめにPRして認知度・参加アップを。⑪
冬場に気軽にスポーツができる環境を整えて。	○冬に、遊歩道（発寒川など）や河川敷などの除雪をしてほしい。冬もウォーキングができるようになる。（あるいは除雪機を持っている人に頼んで除雪の仕組みをつくる）②
アスリートとのふれあいの機会を充実させる。	○運動をすることについて、プロに話を聞いて意識改革。（「スポーツをするとこんな良い事がある」「家事も運動になるなどスポーツの定義を広く解釈」）⑥ ○アスリートと直に接する機会を増やそう。⑧
子どもの頃からスポーツに親しむ機会の充実を。	○札幌市内でボール遊びができる公園が少ない。子どもの頃から気軽に遊べる場所が必要。③ ○夏休みのラジオ体操に子どもももっと参加するように。親も一緒に出るなど子どもの参加を促すべき。② ○学校教育の充実→楽しさを伝える。④
学校部活動での技術の向上を支援する。	○学校の部活の顧問のなり手がいなくなっている。市で外部コーチ雇用の仕組みをつくってほしい。②
子どもがトップスポーツにふれる機会を充実させる。	○トップスポーツの誘致→子供達のあこがれ。④
世代や体力に応じて、気軽にスポーツにふれられる機会を充実させる。	○敷居の低い入口がある事が大事！（初心者向け教室、費用の安さ、学校開放に個人でも入るきっかけがある）① ○もっとスポーツできる場所や機会があることをPRしよう。（自分にあった情報、調べやすい、広報さっぽろをスポーツ情報の充実を！）① ○雪まつり等イベントを活用したスポーツ体験。年令・体力・季節に応じたイベント。④ ○家族で一緒に、高齢者も使える施設のサポート。託児、初心者指導のサポート。④ ○様々なスポーツを知る事ができるイベント、気軽な体験ツアーなど敷居の低い入口を作る。⑥ ○気軽にスポーツを体験できる機会を増やそう。（無料・見学・お試し・道具不要など）⑧ ○世代に合わせて情報の伝え方を工夫しよう。（若い世代にはメールなど）⑧ ○気楽に仲間を誘い合って参加できるイベントが入口として大切。⑪
スポーツの良さをもっと伝えていこう。	○健康のため、体力向上が一番の動機。④ ○スポーツの良さを色んな形で（体験談や「声」など）伝えていこう。⑧

テーマ1	
提案要旨	グループからの提案（丸数字はグループ番号）
高齢者や障がいのある人がもっとスポーツに親しめるような環境を整える。	○高齢者がスポーツに参加しやすくなるために、遊びの延長で参加できるオリジナルスポーツをつくる。（地域・行政で）⑤ ○パラリンピック競技等、だれもが共通でできるスポーツができる機会を提供する。⑨ ○高齢者や障がいのある人がスポーツをするとき、送迎支援をする。⑨
町内会などの組織を活かし、身近な地域でスポーツができる環境を。	○1人では運動するのは難しいので、町内会や高齢者のサークルなどに入るのが良い。② ○様々な世代の人が参加して交流できるようなスポーツイベントを行い、地域で一体となって楽しむきっかけに！③ ○公園を活用して毎日運動イベントを開催。⑨ ○町内会など地域の人材を活かして、ラジオ体操等、日々地域で取組める活動を。⑪
企業でスポーツに取り組む時間を設けるように。	○企業でスポーツにかかわる時間ができるように行政が呼びかける。⑤
ゆとりある社会のあり方を考えよう。	○気持ち・経済に余裕を持てる社会のあり方をみんなで考えなおす。⑥

テーマ2	
提案要旨	グループからの提案（丸数字はグループ番号）
身近な地域で家族ぐるみでできるスポーツの機会を増やす。	○家族でスポーツを地域の中で楽しむ機会を増やす（町内会や、スポーツ推進委員などのコーディネートで親子や若い夫婦がスポーツに参加できる）① ○地域の中で、できるだけ多くのスポーツを体験できる入口をつくる。（子どもの頃からスポーツに親しむきっかけを。スポーツ推進委員さんをもっと活用）① ○子供達だけでやっているラジオ体操→今すぐ取組める、通年で大人も一緒に！顔合わせ、コミュニティづくりに！④ ○気軽に活用できる施設の開放。→地域の人やお年寄が元気なまちになる。⑤ ○地域でも家族でもいつでも気軽に参加できるスポーツの普及。（ラジオ体操、卓球、バドミントン、キャッチボール）⑦
スポーツに参加する人同士のふれあいの機会をつくる。	○1年を通じて、ウォーキングや歩くスキー等、気軽に地域ぐるみで楽しみ、交流できるイベント、スタンプラリーを行なう。（春→夏→秋→冬）③
地域に開かれたスポーツのサークルなどの取組を。	○様々な地域で、小さな単位でセミプロ、ボランティアが指導するサークル的な取組を増やす。⑥

テーマ2	
提案要旨	グループからの提案（丸数字はグループ番号）
子どもがスポーツに親しむ機会を地域で支える。	○様々な団体が連携して指導し、札幌市が助成して、学校・家庭以外で子供達がもっとスポーツに取り組める体制をつくる。③ ○小中学校を中心とした教え合い。地域の方（経験者）が小中学校でスポーツを教える。→成長した子がまた教える。④ ○地域の行事（イベントや防災訓練等）を活かして子供の運動イベントを開催する。⑨
ウィンタースポーツの普及につとめる。	○小学校のスキー事業を大切に。回数を減らさないようにする。② ○施設の開放、指導者の講習会など、誰でも参加でき、冬のスポーツの楽しさを伝えるまち。⑤ ○札幌らしいウィンタースポーツの普及。→まずは体験してもらおう。知ってもらおう。⑦ ○ウィンタースポーツ用品の大人用リサイクル。⑨
ウィンタースポーツをおしゃれに発信する。	○札幌のウィンタースポーツをもっとオシャレに！札幌スタイル・ファッション・音楽・イベントを合わせて「オシャレウィンタースポーツ」の発信地に！③
ユニークなウィンタースポーツを発信していこう。	○ユニークな冬のニュースポーツで売り出す。雪まつりに並ぶ世界から注目されるイベントに！真冬のマラソン大会、スキー駅伝、雪合戦。④ ○冬を逆に楽しんでしまう。新しいスポーツ+冬に必ず出てくる雪はね。楽しい雪はね合戦等の取組を考える。⑥ ○札幌ならではの冬のイベント「雪まつり」と連携したスポーツのイベント企画づくりを。（大通で国際雪合戦、かんじきムカデ競走）（行政内部でも担当部局が連携して）⑥ ○雪合戦など年齢関係なく参加できる地域スポーツイベントをつくる。⑧ ○雪国トライアスロン（歩くスキー、雪かき、・・・）・地域みんなで楽しめる新しいウィンタースポーツをつくる。（地域の高齢者がコーチに）⑨ ○誰でも参加できる新ウィンタースポーツの導入。→地域スポーツの促進。⑩
ウィンタースポーツを活かして観光につなげる。	○昔のように大通公園にスケートリンクを作り、気軽に楽しみ、観光にもつなげる。⑨
市民が広く参加できるスポーツイベント・大会を行う。	○市民みんなで参加できる札幌らしいスポーツイベント。夏：豊平川ウオーキング、冬：歩くスキー大会。④ ○年齢問わず参加も可能なスポーツの大会を積極的に行う。情報の発信。⑤
スポーツボランティアの活動を活発に。	○スポーツボランティアの増加。→スポーツに興味を持ってもらう。⑦ ○市民がボランティアとして多様な人々の参加を支えよう。そのために、子どもの頃から学んでいこう。⑪
既存の施設を活用する。	○大通公園をスポーツに活用できる場所にする。⑧

テーマ2	
提案要旨	グループからの提案（丸数字はグループ番号）
札幌のスポーツ資源を国内外にアピールしていく。	○スポーツ都市宣言をして、札幌のスポーツ資源を国内外に伝える。① ○ファイターズ神社を建てる。ファイターズを盛り上げる。観光スポットにも。② ○カーリング場のPRをもっとしていくべき。道外の人にも来るようになる。② ○「さっぽろスイーツの次はさっぽろスポーツ！」をPR。⑧ ○世界で勝てる人気のあるスポーツだけでなく、多様なスポーツをPRしたい。（よさこいソーランも！）⑪
スポーツを通じた国際交流を。	○スポーツを通じた交際交流を活発に！③
もっとスポーツ情報の提供を。	○スポーツ一覧表等、市民にもっと伝わる工夫をする。⑧
子どもたちがプロのプレーを身近に見れる機会の提供を。	○子供たちがもっと身近にプロの選手のプレーが見れる機会をつくる。⑩
地域のボランティアを通して健康づくりを。	○地域のボランティアを通して健康づくりを！例）除雪をスポーツとして発展させる！除雪選手権①
障がいがある人もスポーツを楽しめる機会を。	○障がいの有無にかかわらず、スポーツを楽しめる機会を。⑪ ○障がいのある人、育児介護中の人地域に出るきっかけとして支援の体制を作っていこう。⑪

6 計画案に対するパブリックコメントの結果

7 札幌市スポーツ推進審議会条例

○札幌市スポーツ推進審議会条例

昭和 38 年 3 月 26 日 条例第 14 号

(設置)

第 1 条 本市は、スポーツ基本法（平成 23 年法律第 78 号）第 31 条の規定に基づき、札幌市スポーツ推進審議会（以下「審議会」という。）を置く。

(組織)

第 2 条 審議会の委員の定数は、10 人以内とする。

2 特別の事項を調査審議するため、必要があるときは、審議会に臨時委員を置くことができる。

3 審議会の委員及び臨時委員は、スポーツに関する学識経験のある者及び関係行政機関の職員のうちから、教育委員会が委嘱する。

(任期)

第 3 条 審議会の委員の任期は、2 年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 審議会の委員は、再任されることができる。

3 臨時委員は、特別の事項に関する調査審議を終了したときは、退任するものとする。

(施行細則)

第 4 条 この条例の施行に関し必要な事項は、教育委員会が定める。

8 第 24 期札幌市スポーツ推進審議会委員名簿

氏名	職業・役職	備考
伊藤 恵子	札幌商工会議所 会員強化対策委員会 副委員長	
佐藤 哲夫	札幌市中学校体育連盟 会長	H25. 5. 10 まで
霜觸 寛	一般財団法人札幌体育協会 会長	会長
秦 豊治	札幌市中学校体育連盟 会長	H25. 5. 11 から
晴山 紫恵子	北翔大学北方圏生涯スポーツ研究センター 研究員	副会長
堀内 修	札幌市スポーツ推進委員会 会長	
三澤 一仁	一般社団法人札幌市医師会 理事	H25. 6. 28 まで
宮崎 誠一	一般社団法人札幌市医師会 理事	H25. 6. 27 から
三好 健二	(株)北海道日本ハムファイターズ管理本部総務人事グループ長	
柳原 悦子	札幌市体育振興会連絡協議会 副会長	
山田 いずみ	元女子スキージャンプ競技選手	
山本 理人	北海道教育大学岩見沢校 准教授	

(敬称略、50 音順)